

【ベルリン＝宮本隆彦】フ

ランス印象派の巨匠モネが親しんだ北部シヴェルニーにあるスイレンの池をモチーフに描いた日本画家平松礼二さん（モネ）の作品展が十二日、ベルリンの国立アジア美術館で始まった。十一日夜の開会式では、日本の伝統的な美意識に基づき「遊び心を楽しんで」と招待客に呼び掛けた。

平松さんは昨年七月、十月にシヴェルニー印象派美術館で「睡蓮の池・モネへのオマージュ」展を開催。同美術館が購入、所蔵した全二十五点の

和と印象派 折衷

平松礼二さんベルリンで作品展

うち、ベルリンの作品展では「モネの池 微風」など日本の様式美が色濃くいびよる絵など十四点を八月三十一日まで展示する。フランスに比べてドイツではジャポニスム（日本趣味）の影響が小さいが、平松さんは「何を感じてもらえるのか楽しみ」と話す。平松さんは四十代まで名古屋市を拠点に活動し、現在は神奈川県鎌倉市にアトリエを構える。二〇〇四年に中日文化賞を受賞した。



11日夜、ベルリンの国立アジア美術館で、作品を説明する日本画家の平松礼二さん＝宮本隆彦撮影